

## G.R.E.S.E. インペリオ・ダ・チジューカ 2014 年 “バトゥーキ(Batuk)”

### 説明

G.R.E.S.E. インペリオ・ダ・チジューカは、自信をもって、2014 年カーニバルに向けたエンヘードを発表します。

「バトゥーキ(Batuk)」という西アフリカ起源の語彙は、打ち、鳴らし、震わせることを意味します。この習慣を基にして、強いリズムと喜びを備えた、初期の打楽器演奏(バトゥカーダ)が生まれました。アフリカの人々は、なんの出来事にしてもリズムと関連付けることで、記憶や民族的文化の特性を共有する手がかりとしてきました。

時を経る中で、打楽器演奏のパターンの違いに重要な意味が生じるようになりました。あるものは自然や祖先と強く結びつき、また、重要な日を祝うのに用いられました。勝利を祝うために用いられるもの、悪を遠ざける守護を祈るために用いられるものもあります。

わが国では、こうした打楽器演奏パターンが、神聖なものから世俗的なものまで、様々な場面で披露される様々なリズム演奏の基本となりました。打楽器演奏(バトゥカーダ)は、人々に喜びや楽しみをもたらすのみならず、闇社会の入り口にいる人々に社会参画を促すきっかけとなるなど、ブラジルの市民生活の改善手段となる道をも模索してきました。

その功績を讃える上で、サンバはもっともふさわしい手段といえるでしょう。黒人が多く住んでいた丘や郊外で即興的に作り上げられたバトゥカーダから生まれたリズム。そのサンバがあって、エスコラが生まれ、バンバと呼ばれるサンバの達人たちが生まれ、そこにストーリーを語るエンヘードが加えられました。そして、チジューカ、正確にはモーホ・ダ・フォルミーガでは、王冠と緑と白の紋章を有する一大「帝国」が作られました。

そして今日、インペリオ・ダ・チジューカは、特別(エスペシアウ)以上の場所への帰還を喜びつつ、関係者全員の全身全霊で、世界中に轟くバトゥカーダを披露し、この文化遺産を讃えます。この、アフリカの人々が世界に与えてくれた、歌や踊りを含むリズム的な文化表現を、私たちはその動機・背景的な分類にはこだわらずに披露します。

まずは楽しんでください。つまるところ、カーニバルなのですから！

さあ、「バトゥーキ(Batuk)」の時間です。

## シノプス

打ち、鳴らし、震わせる、それがバトゥーキ(Batuk)。

われらが始祖の暮らしたアフリカを、律動が全てを形作る、生命を讃える歌の純粹さを思い起こさせるもの。集落では、花火があがる、喜びと踊り、祝祭！勇ましい部族、天賦のコミュニケーション力を有する。神がそのように企図したのだ。ゆえにわが魂は力であり、自然の一部である。

肉体がオーケストラに、楽器に姿を変える。治癒をもたらす。サウダーチを語る。警告する。仮面の帰依儀式で踊る。頭を飾り、幸せを広める。キゾンバを演奏し、友好の価値を讃える。

アシェーを拡散する儀式で回る。黒人、白人、インディオが混交する。強く歌う。強い信仰心から。手を叩く。強い信仰心から。祈る。それ自体が神聖である。信仰のしるしである。

天に向かって歌い上げ、祈る。不正の終わりを訴え、自由を願う。祈りの形で自由に王冠を授ける。慈悲深い神と聖霊に向けて。

大衆文化の根幹を成す、王、混血、マルジェイロス、参加者たち。回転し、喜びを放ち、悲しみを振り払う。「ブレーキ」をかけるような歩みで坂を下り、熱狂する！そして王家の行列が、王冠の行列が続く。

世俗的なもの。身体を揺らし、踊りに身を任せる。リズムは坂を下り、人々を巻き込む。流れを決する。良心に訴える。考えを改めさせる。混合し、批評し、真実を語る。一国を立て直すほどの勢いを生み出す。

国民的喜び。不道德なものとして、禁じられ、押しこめられた。それを耐え忍び、ジョンゴを立ち上げる。舞踏会に戻り、丁重に扱われる。花飾りを受け、旗を掲げ、香水を投げ、お祭り集団を夢中にさせた。そのあたりから、サンバが生まれ、エスコーラができた。

丘を登り、その高みで自らの王国を立ち上げ、マントを広げた。緑色に例えるべき希望と白に例えるべき平和。幸せな郊外に暮らす、勇ましい人々に冠を授けた。その彼らが本日、特別なバトゥーカーダを披露する。

要するに、アフリカからブラジルまで。世界中が、今、バトゥーキ(Batuk)の時を迎える。

ジュニオール・ペルナンブカーノ、チエゴ・マルチンス・ヂ・アラウージョ、ハファエウ・モレイラ

“バトゥーキ(Batuk)”